



世界一のつぼの花は、高さ約3m花にあたる部分だけでも約1mもある。
 特別公開を開始した9月14日から9月21日までの期間中の見学者は、9,649名にもものぼった。

目次

一般ニュース 2
 評議会（9月9日（火））承認事項、「平成15年度第1回東京大学総長賞」の受賞者決定される

部局ニュース 3
 世界一のつぼの花が小石川植物園で咲く、情報理工学系研究科岩田覚助教授第18回数理計画国際シンポジウムにおいてFulkerson Prizeを受賞、第3回ジャーナリストのための短期研修セミナー「政党が

ないと民主主義は成り立たないのか - 激増する「無党派」、危機的状況の「政党政治」 - 」終わる、第12回原子力研究総合センター技術発表会開催される

掲示版 5
 第28回東京大学伊豆・戸田国際マラソンレースの開催、平成15年度東京大学大学院学生学研究奨励金給付申請者の募集について、特別展「シーボルトの21世紀」の開催のご案内、スポーツ・トレーニング（実習）開講のお知らせ

淡青評論「常識」 8

≪ 一般ニュース ≫

評議会（9月9日（火））承認事項

東京大学医学部附属病院規則の一部改正

診療科長の選任方法に教授が欠員の場合を追加し、併せて中央診療施設等、薬剤部及び看護部の部長等を含めた職務等の規定の見直しに伴い所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年9月9日から施行し、改正後の東京大学医学部附属病院規則の規定は、平成15年7月16日から適用する。

東京大学における教員の任期に関する規則の一部改正

大学院医学系研究科及び大学院農学生命科学研究科では、既に導入している教員の任期制の教育研究組織等の見直しに伴い所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年10月1日から施行し、同日以降に任用される者について適用する。

東京大学教養学部規則の一部改正

後期課程基礎科学科における分科名をより適切な教育内容を明示するものに改めるとともに、授業科目の名称変更等カリキュラムの見直しをするために、所要の改正が行われた。

附 則

- 1 この規則は、平成15年10月1日から施行する。
- 2 平成16年3月31日以前に本学部後期課程に進学又は入学した者については、改正後の第10条及び別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東京大学医学部附属病院及び東京大学医科学研究所附属病院受託実習生受入規則等の一部改正

附属病院等においては、委託による研修生・実習生を受け入れており、薬剤部では一般的な薬剤実務の研修・実習にとどまらず、より幅広い薬剤師として必要な知識と技術の習得を目指すことを目的としている。そのための独自のカリキュラムに基づき専任の指導教官及び技官が調整剤部門、製剤部門、医薬品管理部門、情報・研究部門において指導を行っており、他の職種との教習とは内容が異なっている。このためのカリキュラムを実施する研修期間として、受託実習生については2週間、研修生については11ヶ月を必要としている。また、受入れに係る受託実習料・研修料については、実際に要する経費や準備などの時間を考えると実態と大きくかけ離れており、積算を見直す必要があること等に伴い所要の改正が行われた。

附 則

この規則は、平成15年9月9日から施行し、平成15年7月15日から適用する。

「東京大学大学院公共政策学教育部・公共政策学連携研究部設立準備会」の設置

教育部及び連携研究部の創設に関すること等について審議するため、次のとおり標記準備会を評議会の下に設置した。

東京大学大学院公共政策学教育部・公共政策学連携研究部設立準備会要綱

（設置）

第1条 東京大学に東京大学大学院公共政策学教育部・公共政策学連携研究部設立準備会（以下「準備会」という。）を置く。

（任務）

第2条 準備会は、次に掲げる事項について検討する。

- (1) 教育部及び連携研究部創設に関する基本事項
- (2) 大学設置・学校法人審議会に関する事項
- (3) その他教育部及び連携研究部創設に関する事項

（組織）

第3条 準備会は、委員長及び委員若干名をもって組織する。

（委員長）

第4条 委員長は、副学長のうちから総長が委嘱する。

2 委員長は、準備会を招集し、会務を総括する。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代理する。

（委員）

第5条 委員は、次の各号に掲げる者に総長が委嘱する。

- (1) 副学長
- (2) 関連する研究科（学環を含む。）及び研究所の長のうちから総長が指名した者
- (3) 総長が必要と認めた教授又は助教授若干名
- (4) 企画調整官

（委員以外の者の出席）

第6条 準備会には、委員のほか委員長が必要と認めた者を出席させることができる。

（部会）

第7条 準備会における検討を補助するため、準備会のもとに部会をおくことができる。

（庶務）

第8条 準備会の庶務は、事務局学務課において処理する。

（補則）

第9条 この要綱に定めるもののほか、準備会の運営に関し必要な事項は、準備会の定めるところによる。

附 則

この要綱は、平成15年9月9日から実施する。

情報理工学系研究科岩田覚助教授第18回数 理計画国際シンポジウムにおいてFulkerson Prize を受賞

平成15年8月、コペンハーゲンで開かれた第18回数
理計画国際シンポジウムにおいて、岩田覚助教授が、か
ねてから評価が高かった劣モジュラ関数最小化に関する
論文（藤重悟氏、L.Fleischer氏と共著）に対して
Fulkerson Prizeを受賞しました。

この賞は離散最適化に関する理論的貢献に対して国際
数理計画法学会とアメリカ数学会によって授与される国
際賞で、日本人では初の快挙です。

第12回原子力研究総合センター技術発表会開催される

原子力研究総合センター主催の技術発表会が9月1日(月)13時15分より開催された。技術発表会は、技術職員相互の交流と技術水準の向上をはかるため毎年開催されており今年で第12回目を迎えた。開会の挨拶は、センター長(技術部長兼任)の中澤正治教授が病気のため、伊藤泰男教授が行った。その後、引き続き以下の題名で発表された。

1. MALTの現状
(タンデム加速器研究部門 中野忠一郎)
 2. パルサーを用いたエネルギー較正方法の検討
(共用設備管理部門 森田 明)
 3. 高温質量分析計の技術開発と今後
(共用設備管理部門 安本 勝)
 4. 話題提供「コンドライト隕石の化学組成」
(全国共同研究部門研究機関研究員 尾寄大真)
 5. 話題提供「宇宙線生成核種¹⁰B eによる南大東島の土壌の年代測定」
(タンデム加速器研究部門研究機関研究員 前島勇治)
 6. 大学開放研におけるGe-SSDのセッティングの方法
(全国共同研究部門 石本光憲)
 7. MALT PIXEシステムのバックング材に関する基礎データの蓄積
(タンデム加速器研究部門 中野忠一郎)
 8. 酸共存放射線劣化溶液系へのU(VI)の担持
(共用設備管理部門 池田秀松)
- 発表会終了後には懇親会があり親睦を深めた。

(原子力研究総合センター)

第28回東京大学伊豆・戸田国際マラソンレースの開催

今年で28回を迎える伊豆・戸田マラソンレースをご存知でしょうか?

東京大学戸田寮(スポーティア戸田)をスタート及びゴールとする42.195kmのフルマラソンレースです。

富士山を望む秋の西伊豆の海岸線や緑豊かな自然いっぱいのコースを走ってみませんか。

前大会から学外の一般ランナーも参加し、ロシア国からの招待選手を含めた国際交流レースとなりました。

皆様のご参加をお待ちしております。

1. 日 時

11月8日(土)	13時30分	沼津港に集合
	18時30分	開会式 戸田寮泊
11月9日(日)	7時00分	スタート
	13時00分	レース終了
	13時45分	閉会式
	16時00分	沼津港にて解散
2. 参加費 6,800円
(宿泊費及び沼津～戸田間の往復の乗船料を含みます。)
3. 募集人数 100名
(3～5人で1組のチーム参加もできます。)
4. 賞品等
完走者(6時間以内でゴールした者)には完走賞、優秀な成績を修めた選手及びチームには表彰状並びに賞品を贈呈します。
5. 健康診断
指定の時刻を厳守のうえ柳瀬 鉄 容 醜 膝² 威 克 停 関 叶 庸
優秀な成績を修め ④ 鋤 豈
優 銃 島 台 麼 仰 る 堂 々 支 品 皮 調 柳 嬌 齋 麿 二 優 笔 竇 獺 へ 留 台 ル 輔 牟 価 冒 現
(3ば 蓑 瀧 々 = 嬰 も でき ます。)

1271 2003. 9. 24

平成15年度東京大学大学院学生学術研究奨励

特別展「シーボルトの21世紀」の開催のご案内

総合研究博物館では、特別展「シーボルトの21世紀」を開催します。

シーボルトは、江戸時代の日本に医学などヨーロッパ文明を移入しました。その一方で、日本の文化を美術・園芸などを通じてヨーロッパに紹介しました。さらに植物を中心とした日本の自然史研究の基礎となるぼう大な標本を収集し、自ら研究もしました。このシーボルトの功績を彼が日本で収集した標本やその他の資料を通じて紹介し、その21世紀への意義を探ろうと試みるものです。

本特別展は、オランダのライデン大学と共同開催する、本館初の国際共同展示です。本学では平成12年の日蘭修好400年記念に際し、ライデン大学が収蔵する400点あまりの植物標本の寄贈を受けました。本展示ではライデン大学から借り受けた貴重な収蔵標本とともにこれらの寄贈標本も展示します。

開催場所 総合研究博物館（本郷構内）
 開催日時 10月4日（土）～12月7日（日）
 （月曜日休館。ただし祝日の場合は開館で翌日閉館）
 開館時間 10時～17時（入館は16時30分迄）
 （10月4日、11日、18日の各土曜日は17時30分迄開館します）
 入館料 無料
 問い合わせ先 03-5777-8600（ハローダイヤル）
 U R L <http://www.um.u-tokyo.ac.jp>

なお、本特別展開催期間中、公開講座「シーボルトの21世紀」

常識

「学生代表の傍聴人は出席していますね。それでは教授会を始めます。」

1980年代のはじめ、ハーバード大学公衆衛生大学院の助教授ポストに応募した私は、数人の一次選考試験通過者と共にセミナーで研究内容を発表するため、ボストンを訪問した。セミナー終了後いろいろな施設の見学をして数日を過ごしたが、そんな時教授会に出席しないかと誘われた。教授会への出席資格には厳しい制約がある、という常識を持っていた私は、不如意の英語と相まって、非常に困惑した。説明によれば教授会は、学位の認定や懲戒など個人にかかわる議題以外はすべて公開され、議事録は直ちに掲示される、とのことであった。しかも大学の主要な構成員である学生は、必ず傍聴することを求められているので、冒頭のような確認が教授会開会前によく行われていた。

このような公開性に加えて、多様性も私の常識を越えていた。1991年の教授会メンバーは207名で、この中には主要な事務担当者も含ま

(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

れている。この200人余の教授会メンバーが保持している学位の総数は596で、学士が203、修士が174、医師資格を含む博士が219であった。これらの学位を授与した大学は、国名がはっきりわかる場合だけを取り出しても全ての大陸を網羅する17カ国、164大学であった。出身大学数がこれだけ多くなるのは、平均3つ所有している学位をそれぞれ違った大学から得ている場合が多いからである。因みに一つの大学から保持する学位の全てを授与された教員は、私を含めて24名、全体の1割強であった。このうち学位の全てをハーバードから授与され、ハーバードに奉職している人はわずか9名であった。教員だけでなく学生も多様で約600名の学生の内、約4割を占める留学生が世界50カ国から集まっていた。

大学の競争力を維持するためには公開性と多様性が必須の条件である、と言う認識がその当時から彼らの常識となっていたように感じられる。ITの利用によって公開性はますます深化し、現在では学生による授業評価の結果を、ホームページから誰でも見ることができる。

(新領域創成科学研究科 柳沢幸雄)

共巡り僵